WWW.EDOGAWA-U.AC.JP

江戸川大学 学生新聞

THE EDOGAWA TIMES

2014年
12月11日
木曜日
VOL.3 #13

取材／編集：学生記者クラブ
発行：江戸川大学広報センター

密着取材

プロの卵は冷静！ ガルコレを支える映研

「江戸川ガールズコレクション」。ファッションショーやアーティストライブをはなやかに演出する映像は、映像放送研究部の学生がすべて行っている。その映像放送研究部に密着取材をした。冷静沈着に仕事をすすめる彼らにプロの姿をみた。

（文・撮影：志摩千尋　撮影：綿引桃花）

スクリーンに映し出す映像を決めるディレクター

キッズモデルを撮影するカメラマン

江戸川ガールズコレクションでの映像放送研究部のスタッフ構成は、2年生が主体。チーフディレクター、ディレクター、カメラマンやフロアディレクターなど2年生が14人、1年生が15人。それに顧問の内藤先生を含めた総勢30人のチームだ。

11月2日（日）13時30分学園祭初日。江戸川ガールズコレクションの会場、第二体育館に機材を運ぶところから始まる。細かいものまで含むと全部で100もの機材を運ぶ。運び終えたケーブルやカメラなどの機材を設置するのに約1時間。カメラは全部で7台ある。ランウェイを歩いているモデルの姿を横から撮るカメラ、上から撮るカメラ、ステージ全体を正面から撮るカメラなどだ。ざっくりと設置すると、つぎはカメラのこまかなセッティングを1台ごと7台すべてに行う。美しい映像をえるためには不可欠な作業だ。夜遅くまで学生たちの真剣な声ががらんとした体育館に響いている。

11月3日（月）9時。学園祭二日目は、経営社会学科の学生と、カメラや照明などの機材の確認。つぎに、実際にモデルとキッズモデルにランウェイを歩いてもらって、リハーサル。アーティストライブのリハーサルもする。

その間にスクリーンに映す映像のタイミングや切り替えを確認する。本番さながらの緊張感。

13時。本番直前。席は満席。立ち見客の列がかさなっている。オーディエンスの熱気で、記者の心拍数も急上昇する。しかし、会場の上気した空気のなかで、カメラをまわす映研の学生たちは冷静だ。緊張していないのだろうか？

13時30分。本番スタート。カメラマンやディレクターなどスタッフの目つきが変わる。だが、冷静な作業はプロのようだ。スクリーンに映し出されている映像や、それを出すタイミングや切り替えは、学生がやっているとは思えない。

15時。満場の拍手でイベントは終了。華やかなステージの影で、完璧なチームプレイを見せた映像放送研究部に話を聞いてみた。

チーフディレクターで2年生の川島さんは「リーダーとしての責任感を再確認しました。どうすれば後輩がついてきてくれるのかとか、他の学科と協力し合うにはどのように接すればいいのかとか。いろいろな面から考え学びました」という。

おなじく2年生の松本さんは「去年は自分のことで一杯いっぱい。でも今年はディレクターの立場で現場全体に目を向けて動けたと思う」と自己分析する。

冷静な行動には、熟慮と経験の裏付けがあるのだ。

「想像以上の規模の大きさに圧倒され緊張でいっぱい」だった1年生の遠藤さんも、「準備と片づけが大変」だった石崎さんも、来年はクールに作業をこなしているのだろう。

「江戸川ガールズコレクション」で映像放送研究部もまた一歩、プロフェッショナルに近づいていく姿を見た。

上：重い機材を運ぶために車に積み込んでいる。
右：ミーティングで自分たちの役割分担の最終確認をしている。
左：本番、真剣な表情でカメラをまわすスタッフ。

学生記者募集！

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。
記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。
「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう！

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先：TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 広報課